

ひとたびは ポプラに臥す 展

主催: 追手門学院大学
共催: 北日本新聞社
協力: 講談社

ごあいさつ

「ひとたびはポプラに臥す」は、1995年10月から99年11月にかけて、計203回にわたり『北日本新聞』（本社・富山市）に連載された宮本輝氏のシルクロード紀行です。講談社から全6巻の単行本と文庫本が刊行されています。

95年1月、はからずも阪神淡路大震災を経験された宮本氏は、相当な苦難や危険を予測しながらも作家を志した頃から思いを秘めていたシルクロードの旅に赴かれました。5月末、中国・西安を起点に河西回廊を北上し、天山南路のオアシス都市を経て、標高約5,000メートルのクンジュラブ峠を越えてパキスタンに入り、終点イスラマバードまで、実に6,700キロに及ぶ陸路を、38日間をかけて走破する取材旅行です。

この旅は、古代の訳経僧・鳩摩羅什（344年－413年、一説に350年－409年）の足跡を訪ねる旅でした。羅什は当時の龜茲国（現在のクチャ）の王子として生まれ、幼くして出家。9歳で罽賓（ガンダーラあるいはカシミール）に留学し、自国の滅亡や囚われの身となる苦難の生活ののち、龐大な大乘仏教の經典翻訳を生涯の仕事と定め、成し遂げた人物です。「妙法蓮華経」「般若経」「阿弥陀経」は日本にも伝わった重要な經典であり、中でも「妙法蓮華経」は名訳として現在も高く評価されています。

宮本氏は富山を舞台にした「螢川」で芥川賞を受賞し、北日本新聞社主催「北日本文学賞」の選者を務めておられます。その縁で、「いつか羅什が歩いた道を自分も歩きたい」と宮本氏が長年心の奥深くで温めていた思いを同社が企画として提案し、実現した旅であり紀行文です。旅の一部は既に「草原の椅子」や「星宿海への道」等で作品化されていますが、作家の内側で今後さらにどのように熟成し、結実していくのか、その大きさは計り知れません。

追手門学院大学は、開学当初より東洋文化学科（現アジア文化学科）という、中国、日本に留まらずインド、中東までアジア全域を対象地域とし、その歴史、宗教、文化、文学を幅広く研究する学科を擁しています。今回の展覧会はまさしく本学にふさわしい催しと考えており、わたくしども追手門学院大学『宮本輝ミュージアム』において、北日本新聞社の共催でこの展覧会を開催できることは、多大な喜びであります。

ご来館の皆さまには、新聞連載当時の記事や記念の品々をご覧いただき、宮本氏の旅と灼熱の砂漠、砂塵の中での人々の生活、雄大な歴史の舞台となった地に想いを馳せていただければと存じます。

今回は北日本新聞社の全面的なご協力をいただき、旅行時の取材写真、直筆原稿（複製）をはじめ、各種資料をご提供いただきました。宮本輝氏をはじめ、取材に同行された諸氏からは資料のご提供をいただきました。講談社からは写真使用にあたってご協力をいただきました。この場を借りて深くお礼申し上げます。

追手門学院大学附属図書館
宮本輝ミュージアム